令和７年度　公立学校教員採用候補者選考試験問題

教職教養

注意　答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。

問１　次のア～エは学習理論に関する内容を説明した文である。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

ア　問題解決学習は、児童生徒が当面している問題の解決への努力を通して、既成概念や先入観を再構成し、発展させて子供の自主的、創造的、批判的な思考能力を高めようとする学習形態のことである。

イ　発見学習は、発見という行為の習得を目指す学習、または、発見という行為を通じて学習内容を習得することを目指す学習である。

ウ　プログラム学習は、一定の学習目標に到達させるために、細かく分析され、論理的、系統的に順序づけられた内容を、解説、説明、質問、答えの系列に従って習得させる学習指導の方法である。

エ　系統学習は、知識、科学、技術などの体系化された教授内容を、一定の筋道に従って習得させようとする、教育課程の編成および学習指導の方法である。

	ア	イ	ウ	エ
①	×	○	○	×
②	○	×	×	○
③	○	×	○	○
④	○	○	×	×
⑤	×	○	○	○

2025 kyosai-guild.jp

問2　次のア～エは「不登校に関する調査研究協力者会議報告書」（令和４年６月）に関するものである。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

ア　困難を抱えた児童生徒の早期発見・早期支援の方法として、一部の学年を対象としてＳＣ（スクールカウンセラー）等による全員面接を実施することも有効であると考えられる。全員面接の実施により、困難を抱えているがＳＯＳを出すことができていない児童生徒の早期発見につながる可能性がある。

イ　児童生徒を適切な支援につなげていくための教育相談の質向上については、教職員やＳＣ・ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）等が心の問題はもとより児童生徒を取り巻く学校や生活環境に着目し、的確なニーズの把握とより多角的なカリキュラム・マネジメントを行うことが必要である。

ウ　コロナ禍による影響が長期化するなか、今後も学校における対面での児童生徒の心身の状況や家庭環境等の把握が困難な状況に陥ることも想定される。さらに大規模災害等による緊急事態が発生する可能性も否定できない。そのような緊急時においても状況に応じ、学校では学級担任等を中心として電話、ＩＣＴ等あらゆる手段を活用し児童生徒の情報把握が必要であるが、ＳＣ・ＳＳＷにおいては、守秘義務を遵守するために職務上知り得た児童生徒の情報を学級担任等と共有する必要はない。

エ　教育相談は、学校生活において児童生徒と接する教員が、子供たちの悩みや不安を把握するために不可欠な業務である。教職員は、教育相談に関する基本的な知識・技能を学ぶとともに、教員の養成段階からＳＣ・ＳＳＷ等の専門職と連携しながら対応する必要があることを学んでおくことも必要である。

	ア	イ	ウ	エ
①	×	○	×	×
②	○	×	×	○
③	○	×	○	×
④	○	○	×	×
⑤	×	×	○	○

2025 kyosai-guild.jp

問3　次の文は、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」（令和３年１月）に関するものである。文中の［　ア　］～［　ウ　］にあてはまる語句の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

全ての教師には、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫できる力や、［　ア　］の教育支援計画・［　ア　］の指導計画などの特別支援教育に関する基礎的な知識、［　イ　］的配慮に対する理解等が必要である。加えて、障害のある人や子供との触れ合いを通して、障害者が日常生活又社会生活において受ける制限は、障害により起因するものだけではなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものという考え方、いわゆる「社会モデル」の考え方を踏まえ、障害による学習上又は生活上の困難について本人の立場に立って捉え、それに対する必要な支援の内容を一緒に考え、本人自ら［　イ　］的配慮を意思表明できるように促していくような経験や態度の育成が求められる。また、こうした経験や態度を、多様な［　ウ　］のある子供がいることを前提とした学級経営・授業づくりに生かしていくことが必要である。

	ア	イ	ウ
①	総合	模範	教育的ニーズ
②	個別	合理	ギフテッド
③	総合	模範	ギフテッド
④	個別	合理	教育的ニーズ
⑤	個別	模範	ギフテッド

問4　次のア～エは「中学校・高等学校キャリア教育の手引き　－中学校・高等学校学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠－」（令和５年３月）に関するものである。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

ア　「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

イ　「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

ウ　「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

エ　「キャリアプランニング能力」は、「育つこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「育つこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

	ア	イ	ウ	エ
①	×	×	○	○
②	○	○	○	×
③	×	○	×	○
④	○	×	○	×
⑤	○	○	×	○

2025 kyosai-guild.jp

問5　次の文は、防衛機制に関する説明である。文中の［　ア　］～［　オ　］にあてはまる語句の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

不安によって［　ア　］の統合性を維持することが困難な事態に直面したとき、［　イ　］はその崩壊を防ぐために様々な努力を無意識のうちに行うが、このような［　イ　］の働きを防衛機制という。［　イ　］を脅かすものとしては、一方にはその個人を取り巻く外界の厳しい現実社会があり、他方には自分の内部の［　ウ　］や［　エ　］がある。すなわち［　イ　］は、快感原則に従って衝動を一方的に満足させようとする［　ウ　］や、道徳的な禁止を命ずる［　エ　］などによっても脅かされる。［　イ　］は、こうした外的現実や内界の［　ウ　］ならびに［　エ　］の三者間の葛藤による［　オ　］や苦痛や罪悪感などから自身を守り、［　ア　］の統一性を保持しようとするのである。

	ア	イ	ウ	エ	オ
①	心性	個性	ミーイズム	超自我	不安
②	人格	自我	エス（イド）	超自我	不安
③	心性	個性	ミーイズム	意識下	不安
④	心性	自我	エス（イド）	意識下	調和
⑤	人格	個性	ミーイズム	意識下	調和

問6　次のア～エは教育評価に関するものである。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

ア　到達度評価は、期待される学習の到達目標の達成具合で児童生徒の学業成績を評価することであり、児童生徒が全員満点をとることが目標とされる。相対評価が、教師の指導法の検討に適さない、過度の競争を刺激する、などの問題点をもつため、その反省から1960年代にこの考え方が広まった。

イ　ポートフォリオとは、学習における具体的な目標と、それぞれの達成レベルを一覧表にしたもの、また、それを用いた評価法である。

ウ　学習が効果的に行われるためには、学習者の側に、身体的にも心理的にも学習にふさわしい素地が用意されていなければならない。このような知能、知識、技能、体力、興味などの学習に必要な準備状態を総称してレディネスとよぶ。

エ　総括的評価は、様々な教育活動の途上で、その活動が所期の目的を達成しつつあるかどうか、どのような点で活動計画の修正が必要であるかを知るために行われる評価活動である。

	ア	イ	ウ	エ
①	○	×	○	○
②	×	○	○	×
③	○	○	×	○
④	○	×	○	×
⑤	×	○	×	○

2025 kyosai-guild.jp

問7　次の文は、ピアジェの研究に関するものである。文中の［ア］～［エ］にあてはまる語句の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

中期の研究は、乳児期の知能の起源の探究ならびに幼児・児童の基本的概念の形成の分析に向けられている。乳児の知能は、［ア］的活動によって示されるが、生後２歳ごろまでに、この［ア］的知能に論理構造が付与されていくし、物体の永続性の考えも身についてくる。そして、［ア］的知能の内面化が進行していくことにより、イメージが出現し、［イ］的思考の段階に入っていく。この過程を、自分の３人の愛児たちの行動について、実験的に設定した場面のなかで組織的に観察することによって確証した。また、幼児における［ウ］、量、時間、空間、速さ、偶然性などの基本的概念は、未分化で萌芽的なものにすぎない。これらが論理的に操作されるに至る発達の筋道を解明することも、この時期の彼の関心事であり、この研究を通して［イ］的思考期から［エ］的思考期への発達過程が分析された。

	ア	イ	ウ	エ
①	感覚運動	客観	数	行為
②	反射運動	表象	色	操作
③	感覚運動	表象	色	行為
④	反射運動	客観	数	行為
⑤	感覚運動	表象	数	操作

問8　次のアは「教育基本法」、イは「学校教育法」、ウは「学校教育法施行規則」、エは「学校保健安全法」の内容である。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

ア　正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、奉仕の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

イ　校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。

ウ　校長は、児童等が進学した場合においては、その作成に係る当該児童等の指導要録の抄本又は写しを作成し、これを進学先の校長に送付しなければならない。

エ　校長は、感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる。

	ア	イ	ウ	エ
①	○	×	×	×
②	×	×	○	×
③	○	×	×	○
④	×	○	○	×
⑤	×	○	×	○

2025 kyosai-guild.jp

問9　次のア～ウは「教育公務員特例法」、エは「地方公務員法」の内容である。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

ア　教育公務員には、研修を受ける権利が与えられなければならない。
イ　教育公務員は、国の定めるところにより、現職のままで、長期にわたる研修を受けることができる。
ウ　指導教員は、初任者に対して教諭又は保育教諭の職務の遂行に必要な事項について指導及び助言を行うものとする。
エ　職員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

	ア	イ	ウ	エ
①	○	×	×	×
②	×	○	×	×
③	○	×	×	○
④	×	○	○	×
⑤	×	×	○	○

問10　次の文は、「生徒指導提要」（令和４年12月改訂）の第１章の内容である。文中の［　ア　］～［　ウ　］にあてはまる語句の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

学校教育の目的は、「［　ア　］の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」（教育基本法第１条）を期することであり、また、「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」（同法第２条第２号）ことが目標の一つとして掲げられています。

この学校教育の目的や目標達成に寄与する生徒指導を定義すると、次のようになります。

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や［　イ　］する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて［　ウ　］や援助を行う。

	ア	イ	ウ
①	人格	生育	支援
②	人格	発達	指導
③	人格	発達	支援
④	個性	生育	支援
⑤	個性	生育	指導

2025 kyosai-guild.jp

問11　次の文は、「いじめ防止対策推進法」の内容である。文中の［　ア　］～［　エ　］にあてはまる語句の組合せとして正しいものを①～⑥から一つ選べ。

（定義）

第二条　この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の［　ア　］を感じているものをいう。

（基本理念）

第三条　いじめの防止等のための対策は、いじめが［　イ　］児童等に関係する問題であることに鑑み、児童等が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の［　ウ　］いじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

（学校及び学校の教職員の責務）

第八条　学校及び学校の教職員は、基本理念にのっとり、当該学校に在籍する児童等の保護者、地域住民、［　エ　］その他の関係者との連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組むとともに、当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに対処する責務を有する。

	ア	イ	ウ	エ
①	不調	全ての	管理内において	児童相談所
②	不調	特定の	内外を問わず	児童相談所
③	不調	特定の	管理内において	社会福祉協議会
④	苦痛	特定の	管理内において	社会福祉協議会
⑤	苦痛	全ての	内外を問わず	児童相談所
⑥	苦痛	全ての	内外を問わず	社会福祉協議会

問12　「第４期教育振興基本計画（令和５年６月16日閣議決定）」の基本的な方針として示されたものとして誤っているものを①～⑥から一つ選べ。

① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
② 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
③ 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
④ 教育デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の推進
⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話
⑥ ゆとりのある教育を展開し、基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実

2025 kyosai-guild.jp

問13 次のア～エは「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和３年１月26日中央教育審議会答申）」に関するものである。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑥から一つ選べ。

ア　幼稚園等の幼児教育が行われる場において、小学校教育との円滑な接続や特別な配慮を必要とする幼児への個別支援、質の評価を通じたＰＤＣＡサイクルの構築が図られるなど、質の高い教育が提供され、良好な環境の下、身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる。

イ　生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るために必要な「確かな学力」・「豊かな心」を育成するとともに、児童生徒の生活や学びにわたる課題（貧困、虐待等）が早期に発見され、外国人児童生徒等の社会的少数者としての課題を有する者を含めた全ての児童生徒が安全・安心に学ぶことができる。

ウ　学校と社会とが連携・協働することにより、多様な生徒一人一人に応じた探究的な学びが実現されるとともに、リカレント教育などの実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学びが提供されている。

エ　幼児教育から小学校、中学校、高等学校、大学・社会といった段階を通じ、一貫して、自らの将来を見通し、社会の変化を踏まえながら、自己のキャリア形成と関連付けて学び続けている。

	ア	イ	ウ	エ
①	○	○	×	×
②	○	×	○	×
③	○	×	×	○
④	×	○	○	×
⑤	×	○	×	○
⑥	×	×	○	○

2025 kyosai-guild.jp

問14　次の文は、「学校教育情報化推進計画（令和４年12月26日）」に関するものである。文中の［ア］～［エ］にあてはまる語句の組合せとして正しいものを①～⑥から一つ選べ。

・不登校、病気療養、障害、［ア］指導を要すること、あるいは特定分野に特異な才能を有することなどにより特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、さらには個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供、中山間地域や離島等の児童生徒への多様な学びの機会の提供等に、ＩＣＴの持つ特性を最大限活用することが重要である。

・子供たちが授業のみならず、家庭等でも日常的にＩＣＴ端末を活用した学習をする機会が増えていくと考えられることから、視力をはじめ、ＩＣＴ機器を使用することによる児童生徒の［イ］面への影響について配慮することが必要である。

・高等学校における「情報Ｉ」の必履修化や、大学におけるデータサイエンス教育の充実などを踏まえ、［ウ］の観点からも、小学校段階からの体系的な情報活用能力の育成が必要である。

・学校図書館は、「読書センター」機能のほか、ＩＣＴの活用を含めた、情報の収集・選択・活用能力を育成し、教育課程の展開に寄与する「学習センター」「情報センター」としての機能も有することから、各教科担当職員と［エ］、学校司書がより一層連携し、教職員のＩＣＴ活用能力を高めることが必要である。

	ア	イ	ウ	エ
①	生徒	健康	個別最適化	司書教諭
②	生徒	学力	高大接続	司書教諭
③	生徒	学力	高大接続	主幹教諭
④	日本語	健康	高大接続	司書教諭
⑤	日本語	健康	個別最適化	主幹教諭
⑥	日本語	学力	個別最適化	主幹教諭

2025 kyosai-guild.jp

問 15　次のア～エは、「ＰＩＳＡ 2022」における日本の結果に関する内容である。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑥から一つ選べ。

ア　数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの３分野全てにおいて、参加した 81 か国・地域の上位 10 位以内であった。

イ　数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの３分野全てにおいて、前回 2018 年調査より平均得点が上昇した。

ウ　読解力、科学的リテラシーにおいて低得点層（習熟度レベル１以下）の割合が有意に増加し、数学的リテラシー、科学的リテラシーにおいて高得点層（習熟度レベル５以上）の割合が有意に減少した。

エ　社会経済文化的背景（ＥＳＣＳ）の水準が高いほど習熟度レベルが高い生徒の割合が少なく、低いほど習熟度レベルが低い生徒の割合が多い傾向が見られた。

	ア	イ	ウ	エ
①	○	○	×	×
②	○	×	○	×
③	○	×	×	○
④	×	○	○	×
⑤	×	○	×	○
⑥	×	×	○	○

2025 kyosai-guild.jp

令和７年度　解答用紙

教職教養	１／１枚中	受験番号

問1	⑤　（１点）	問2	②　（１点）	問3	④　（１点）	問4	②　（１点）	問5	②　（１点）
問6	④　（１点）	問7	⑤　（１点）	問8	④　（１点）	問9	⑤　（１点）	問10	②　（１点）
問11	⑤　（２点）	問12	⑥　（２点）	問13	③　（２点）	問14	④　（２点）	問15	①　（２点）

整理番号	

（この欄は記入しないこと）

2025 kyosai-guild.jp